

高度医療福祉国家への転換 - 日本での21世紀型産業革命

国際予防医学リスクマネジメント連盟 (URMPM)

理事長 酒井 亮二

URMPMは西欧全域を含む全世界70カ国以上に会員が分布し、フランス、カナダ、ロシア、マレーシア、イラン、コスタリカなど世界各地の会員によって、様々な言語によって独自の活動が展開されています。日本予防医学リスクマネジメント学会(JSRMPM)は日本語による1支部です。JSRMPM設立の発案は2002年1月17日ですので、本日をもってJSRMPMは8年目を迎えました。

21世紀最初の10年間にあって世界は、スマトラ・パキスタン・バングラデシュでの震災、テロのグローバル化、先進国での医療事故多発、化学物質による食物汚染、ウイルス感染症による国際的危機、そして最近の金融危機といった、地球環境問題以外にも深刻な危機管理・リスク管理の諸問題が発生しました。URMPMはこれらのグローバルな生存上の難問について日本を含め国際的に解決しようとする人々の集まりです。

さて、日本の抱える最大の危機管理問題は、人口衰退傾向から「日本の将来は必ず没落する」ことです。栄華をきわめた多くの国家が過去に退場しましたが、日本にはこの国家危機に対する明快な国家戦略がありません。超高齢化社会を迎える日本での「21世紀の産業革命」は何でしょう？

回答の1つは「高度医療福祉国家への転換」です。日本は世界一安い医療費で世界一の長寿国ですので、米国をはじめとして世界が日本の医療に注目しています。また、日本の安全工学・品質工学は世界一であり、日本製品の品質に対する評価は世界一です。これらの理由から、URMPMの安全と医療の研究開発拠点として日本は世界で最適な国です。

日本の持つ上記の国際的の魅力から、日本ではより高度な医療福祉システムの創出が可能です。つまり、1)日本の医療福祉活動でアジア・南米・アフリカから大量の人々を向かい入れ、日本を国際的な人材育成の工場とし、2)日本の医療人が世界に医療施設を開設していくこと、すなわち、日本医療の大規模な国際化は、言語のバリアーという簡単な1つの問題さえ乗り越えれば、可能です。

世界に羨望されている日本の社会保障システムは最近その崩壊が指摘され、現状のままでは持続可能な世界ではありません。しかし、日本の社会保障システムが世界からの研究対象にされるだけでなく、国際的な巨大ビジネス市場に転換する最後の大きなチャンスです。日本の医療は国際的には「今が買い」、「今が旬」であり、国際規模に発展することによって、より高度な医療福祉システムに関する国内インフラの持続発展が可能です。

日本医療の国際化は医薬品や医療機器ではすでに実施されており、それらは海外で高い評価と尊敬を集めて、日本に対する海外からの期待は依然として高いものです。医療福祉の国際化にはそれに伴い保険制度、医学教育制度、医療施設などの様々なインフラの大規模開発が必須です。イギリス産業革命が世界を席卷したように、日本発の医療福祉の産業革命も全世界を対象にする壮大スケールの新たな歴史の始まりと考えます。